

もったいない地球財布は  
自分に必要なものの量を見極め、  
再利用と地産地消をすすめます



NEWS!

2019. 1月号

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク ●〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-17-11 エコロジーラボ内  
●郵便振替 00920-8-154437 ●年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)  
●TEL&FAX:06-6462-2775 ●携帯:090-8989-5182(代表山口) ●http://greencon.g2.xrea.com/ ●greencon@g2.xrea.com

## プラスチックごみの海洋汚染をなくすために

“買い物が地球を変える” なのです。

グリーンコンシュー  
マーの出発点です

当会は、2002年に「買い物ガイド大阪版」を発行し、レジ袋やポリ袋を使わない店舗を紹介しました。しかし、ペットボトルの普及で、世界有数の生産と消費量となっています。日本では、ペットボトルの回収率は9割弱だと喜んでいてはなりませんね。未回収ペットボトルは、約26億本にもものぼるのです。そして河川で回収される散乱ごみの上位に飲料ペットボトルがきていることを考えれば、かなり多くのペットボトルがポイ捨てされたか、ゴミ箱からあふれて雨風に飛ばされた可能性があります。これらはやがて海に流れ込みます。

ペットボトルの材質であるペット（ポリエチレンテレフタレート）は海水よりも比重が大きいので、ペットボトルは沈んで、海底に溜まっていきます。海洋に流入するプラスチックごみの33%は飲料系のごみだと推定されているため、飲料用ペットボトルの回収を100%にする（または抹消する）だけで、海洋に流入するプラごみの1/3は減らすことができます。しかし7割弱のプラごみの正体は、レジ袋や容器プラなどこれも日常に消費するものなので、これに替わるものが緊急の課題となります。

今年の6月に大阪で開催される第14回20カ国・地域首脳会議（金融世界経済の会議）では、国際問題となっている海洋プラスチックごみ規制もテーマに。大阪府・大阪市は「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を発表。グリーンコンシューマー大阪は、下記の具体の取組みを提案します。

**やばいよ、やばい現実**

**ペットボトルの消費(2016年)**  
世界では、  
たった 1分間に 100万本。  
年間 5,831億本。  
地球 2900周分。

日本では、  
たった 1分間に、44,000本。  
年間 232億本。  
地球 126周分。

## 2019天神祭ごみゼロ大作戦が始動します

さらに 資源分別・使い捨てプラ容器をなくし、リユース容器を！



市民の力で実現しましょう。

2018年実績

廃棄物が13.8トン減量。分別により資源化が69%にも。分ければ資源の実感。

①花火会場に近い公園のエコステーションには、ごみを持参する人の行列が絶えませんでした。